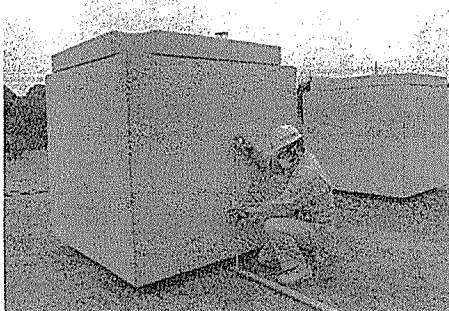


高濃度放射性 焼却灰管理用 コンクリ容器開発



外形寸法は1.6m×1.6m×1.6m。構造について特許を出願している

前橋工科大学の公彦型 の岡野泰之教授と共同開 発した容器は、外形寸法 1.6m×1.6m×1.6m、15%で遮蔽(しゃげい)性能は85%、20%で90%に及び、これを標準仕様として、内面にエポキシ樹脂塗装を施したものとウレタン塗装を施したものの3種類を展開する。 それぞれの遮蔽率に差はほとんどないが、コンクリートのみでは放射線物質が水分を含む場合、コンクリートに吸着してしまったため、使用後は容器自体が放射線物質になり、用途は限定的。 一方、内部に樹脂コーティングしたものは、エ

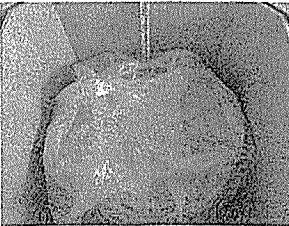
カイエー共和コンクリートと前橋工科大

内部に樹脂塗装し再利用 普及促進にRSC研究会発足

6層のコンクリート立方体(特許出願済み)。コンクリートの厚さは15%で遮蔽(しゃげい)性能は85%、20%で90%に及び、これを標準仕様として、内面にエポキシ樹脂塗装を施したものとウレタン塗装を施したものの3種類を展開する。

ポキシタイプで使用後は、放射性物質を95%ふ

コンクリート製高濃度放射性カイエー共和コンクリート(前橋市堀子町4-1-1、中山泰光社長)027(261)2661)はこのほど、前橋工科大学と共同で、放射性物質で汚染された焼却灰を保管するコンクリート容器を開発した。福島第一原発事故以降、東日本各地の下水処理施設の汚泥焼却灰から放射性物質が検出。セシウム濃度が基準値を超えるものは、現場での一時保管が求められるが、最終処分を巡る問題もあり、保管ヤードが一杯になるケースが出てきている。こうした課題を解消しようと開発した商品で、扉外での一時保管はもちろん、人体への影響を抑えつつ運搬できるのが特徴となる。すでに普及促進に向け、独自の研究会を発足しており、県内外の自治体に採用を呼び掛けている方針だ。



土のう袋がすっぽり収まる大きさ

返し活用できる。価格は標準が1基2万円、エポキシタイプが同45万円、ウレタンが同50万円。なお、普及促進に当たっては同社、ナベ工業(高崎市矢中町)、太陽コンクリート工業(高崎市下豊岡町)らと社でRSC研究会を立ち上げており、

特許・商標



き取ることが可能(水ぶき)なほか、ウレタンタイプも除染効果こそ80%と多少劣るものの、ひび割れ追従性が高く防水効果に優れるといったメリットがあり、ともに練り

各社のネットワークを活用し、販路を拡大する。また、今回の研究成果について、7月に名古屋で行われたコンクリート工学年次大会で発表。容器の構造、効果のほか、コンクリートのヒビ割れ(0.1mm程度)では遮蔽効果が落ちないことなどが報告され、米場者の関心を集めた。

飯塚豊開発室長の話。一般的に保管に使われている土のう袋がすっぽり収まる大きさと、利便性は高いはず。今年度は引続き、コンクリート製品を使った大型保管容器の研究にも取り組むので、新しい需要を開拓していければ。